

リゾクトニア属菌による病害と
野菜・果樹の細菌性病害防除剤

農林水産省登録
第17386号

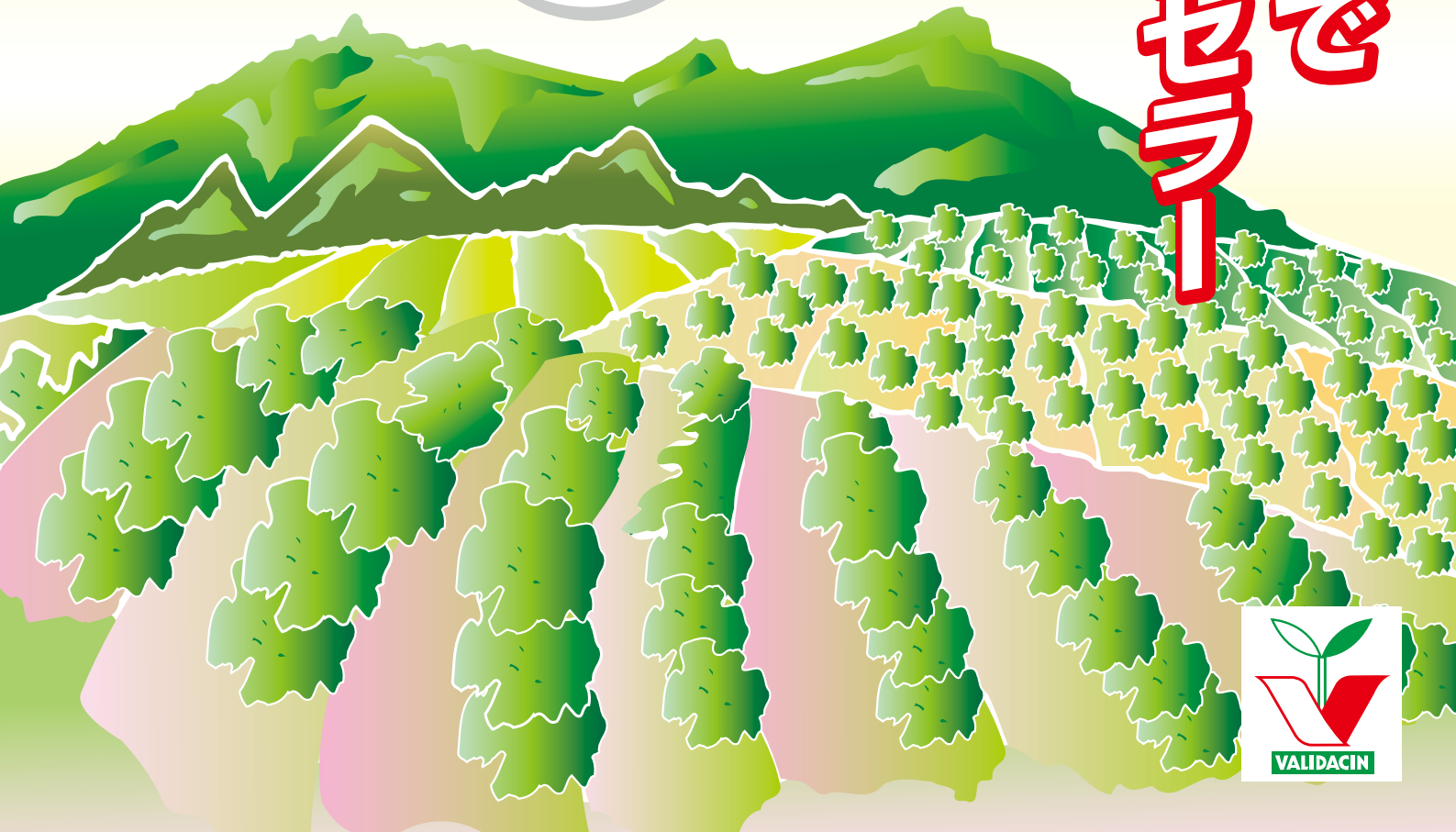


バリダシン[®]液剤5

バリダシンは住友化学(株)の登録商標



稲作から園芸まで
安心のロングダセラー



特長

- ① 有効成分バリダマイシンAは、病原菌がエネルギー源とするトレハロースの分解酵素(トレハラーゼ)の働きを阻害し、リゾクトニア病害および細菌性病害に効果を示します。
- ② ユニークな作用機構で、薬剤感受性低下の心配がほとんどなく、他剤に感受性の低下した菌にも効果を示します。
- ③ 適用作物への汚れの心配がほとんどありません。

■適用病害と使用方法

※収穫物への残留回避のため、その日まで使用できる収穫前の日数の制限を示します。
色字は細菌性病害です。

作物名	適用病害名	希釈倍数	使用液量	使用時期※	本剤の使用回数	バリダマイシンを含む農薬の総使用回数	使用方法	
もも	せん孔細菌病	500倍	200~700ℓ/10a	7日	4回以内	4回以内	散布	
すもも	黒斑病			14日				
かんきつ	かいよう病	800倍	100~300ℓ/10a	7日	5回以内	5回以内		
キャベツ	株腐病 軟腐病							
はくさい	軟腐病 黒斑細菌病	500倍	3日	3回以内	3回以内			
レタス 非結球レタス	すそ枯病 腐敗病 軟腐病	800倍	7日					
きゅうり	苗立枯病 (リゾクトニア菌)	3ℓ/m ²	は種直後	1回	1回	灌注		
		400倍	6ℓ/m ²	は種時	1回	2回以内		株元散布
ねぎ	白絹病	500倍	—	21日	1回	4回以内		4回以内
					4回以内			
だいこん	軟腐病	800倍	100~300ℓ/10a	3日	5回以内	5回以内		
たまねぎ	腐敗病 軟腐病							
しょうが	紋枯病	800倍	100~300ℓ/10a	14日	4回以内	4回以内		
みつば	立枯病			育苗期			1回	4回以内 (育苗期は1回以内、 移植後は3回以内)
		移植後 但し収穫21日前まで、 伏せ込み栽培は 伏せ込み前まで	3回以内					
にんにく	春腐病	3ℓ/m ²	—	7日	5回以内	5回以内	灌注	
ふき	白絹病			5回以内	5回以内	(種茎浸漬は 1回以内)	30分間種茎浸漬 散布	
にら	葉腐病	100~300ℓ/10a	刈揃え前まで	3回以内	3回以内	3回以内	瞬時~10分間 種いも浸漬	
ばれいしょ	黒あざ病	200倍	—	貯蔵前 又は植付前	1回	7回以内 (種いもへの処理 は1回以内、 植付後は6回以内)	種いも散布	
								種いも100kg当り 2.5~3ℓ
だいず えだまめ	葉焼病	500倍	100~300ℓ/10a	7日	3回以内	3回以内	散布	
稲	紋枯病 疑似紋枯症 (赤色菌核病菌 褐色菌核病菌 褐色紋枯病菌) もみ枯細菌病	1000倍	60~150ℓ/10a	14日	5回以内	6回以内 (育苗箱灌注は 1回以内、本田では 5回以内)		
		300倍	25ℓ/10a					
稲 (箱育苗)	苗立枯病 (白絹病菌 リゾクトニア菌)	1000倍	育苗箱(30×60× 3cm、使用土壌約5ℓ) 1箱当り希釈液 500mℓ	は種時~ 発病初期	1回	1回	灌注	
てんさい	苗立枯病 (リゾクトニア菌)	400倍	3~6ℓ/m ²	育苗中期	—	1回	散布	
はぼたん	黒腐病	800倍	100~300ℓ/10a	発病初期	8回以内	8回以内		
西洋芝 (ベントグラス)	葉腐病 (ブラウンパッチ)	1000倍	1ℓ/m ²					
日本芝	葉腐病 (ラージパッチ)	500倍	0.5~1ℓ/m ²					

△使用上の注意

- ボルドー液との混用はさけてください。
- かんきつのかいよう病に対しては効果がやや劣る場合があるので、他剤と輪番使用すると、より有効です。
- 稲の苗立枯病に使用する場合は、白絹病菌、リゾクトニア菌による苗立枯病には有効ですが、その他の菌による苗立枯病には効果が劣るので、注意してください。
- 本田の水稲に対して希釈倍数300倍で散布する場合は、所定量を均一に散布できる兼用型(速度運動式)地上液剤少量散布装置を使用してください。
- レタス、非結球レタスに使用する場合は、すそ枯病の防除を主体とし、多発生の腐敗病には効果が劣ることがあるので注意してください。
- ばれいしょの青枯病に使用する場合は、本病の多発する圃場では、登録のある土壌くん蒸剤等との併用処理をしてください。
- ばれいしょの軟腐病に対しては効果が劣る場合があるので、他剤と輪番使用をするとより有効です。
- ばれいしょの種いもに使用する場合は下記の注意を守ってください。
 - ① 切断した種いもを処理する場合、切断面が乾いた後に行なってください。
 - ② 種いも散布の場合は、種いもを床などに掛け、全体が均一にぬれるよう散布してください。
 - ③ 処理した種いもは、よく風乾してから植付けてください。
- ふきに使用する場合は、種茎浸漬処理と植付後の灌注を合わせて使用してください。
- トマト、さく(秀芳の力等)には薬害を生ずるおそれがあるので、かからないように注意して散布してください。
- だいこんの軟腐病が多発するような条件では本剤はやや効果が劣る場合があるので、なるべく早めの散布をし、他剤との輪番使用をこころがけてください。
- 眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに水洗してください(弱い刺激性)。
- 使用の際は不浸透性手袋などを着用してください。
- 処理した種いもは、食料や動物飼料として用いないでください。
- 公園等で使用する場合は、使用中および使用後(少なくとも使用当日)に小児や使用に関係のない者が使用区域内に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意してください。
- 適用作物群に属する作物またはその新品種に本剤をはじめ使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けてください。

●使用前にはラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には使用しないでください。●小児の手の届く所には置かないでください。●空容器は圃場等に放置せず適切に処理してください。

28H10J16B25:Z

この印刷物は2016年10月末日現在の登録内容に基づいて記載しております。

大地のめぐみ、まっすぐ人へ
SCA GROUP

住友化学

〒104-8260 東京都中央区新川2丁目27番1号

お客様相談室 0570-058-669

農業支援サイト 農力 <http://www.i-nouryoku.com>

